

総合型選抜・学校推薦型選抜の出願書類における設問の頻度分析

——公立大学を対象として——

樽松理樹, 天野哲彦 (岩手県立大学)

近年, 大学入学者に占める総合型選抜及び学校推薦型選抜合格者の割合が増加傾向にある。しかし, これらの選抜についての網羅的な調査は, まだ少ない。本稿では公立大学を対象に, 両選抜の出願書類の設問について調査分析を実施した。その結果, 入学希望理由や学びたい内容の明確な記載を求める割合は約 60%であるが, 学びの計画については 10%程度であることが分かった。また活動・実績報告ではボランティア活動や資格・検定の明確な記載を求める割合は 15%程度であり, 項目立てしない設問が多数を占めた。全体的な傾向として, 総合型選抜が学校推薦型選抜より, 卒業後の目標や活動・実績の詳細への言及が多い傾向が見られた。

キーワード: 総合型選抜, 学校推薦型選抜, 出願書類, 設問, 頻度

1 はじめに

大学入学者選抜試験(以降, 入試)は, 各大学が自分達の大学で学ぶに値する者を選抜する制度であり, 「社会の将来を担う若者を育てる教育の一環として, 社会的に重要な位置を占める制度」(倉本, 2020)である。我が国の入試は『令和6年度大学入学者選抜実施要項について(通知)』(以後, 「実施要項」)(文部科学省, 2023b)において, 一般選抜とその他の選抜に大別されており, 後者の代表的な選抜が総合型選抜(以後, 総合型), 学校推薦型選抜(以後, 推薦型)である。

これら選抜の国公私立大における実施状況について『令和5年度国公私立大学入学者選抜実施状況』(文部科学省, 2023a)『平成27年度国公私立大学入学者選抜実施状況の概要』(文部科学省, 2015)を基に令和5年度と平成25年度とを比較した結果を表1に示す。表1における比は, 令和5年度の値を平成25年度の値で割った値であり, 1.0 超の場合は太字としている。表1で示すように, 推薦型の一部を除き, 全体として増加傾向にある。なお, 数と%で比が異なるのは, 平成25年から令和5年にかけて総数が増加しているためである。

近年, 総合型や推薦型は年内で入学先が決定することから「年内入試」と呼ばれ, 『大学「年内入試」を完全攻略!』(日経ダイヤモンド, 2023)といった特集記事や『選抜入試の教科書』(クラウドセンバツ, 2023)のような一般書も出版されるようになっている。

このように総合型・推薦型が増加傾向にあり, 注目が高まっていることも踏まえ, 入試における重要な課題である選抜方法の分析・開発(倉本, 2020)を, 総合型・推薦型についても取り組む必要がある。

一般選抜の代表的な選抜方法である筆記試験に対しては, 大学入試センターによる「令和5年度 問題評価・分析委員会報告書(本試験)」(大学入試センター,

表1 総合型・推薦型の実施状況比較

	選抜区分		総合型（AO）			推薦型		
	実施年度		平成25	令和5	比	平成25	令和5	比
国立	大学数	数	47	64	1.36	76	77	1.01
		%	57.3%	78.0%	1.36	92.7%	93.9%	1.01
	学部数	数	137	247	1.80	267	285	1.07
		%	36.0%	62.2%	1.73	70.1%	71.8%	1.02
	入学者数	数	2640	5744	2.18	12327	12015	0.97
		%	2.6%	5.9%	2.27	12.3%	12.3%	1.00
公立	大学数	数	23	40	1.74	79	95	1.20
		%	28.4%	41.7%	1.47	97.5%	99.0%	1.02
	学部数	数	35	81	2.31	164	205	1.25
		%	20.1%	38.4%	1.91	94.3%	97.2%	1.03
	入学者数	数	567	1445	2.55	7205	9083	1.26
		%	1.9%	4.1%	2.16	24.1%	26.0%	1.08
私立	大学数	数	466	558	1.20	575	602	1.05
		%	80.8%	92.4%	1.14	99.7%	99.7%	1.00
	学部数	数	1154	1773	1.54	1634	1939	1.19
		%	70.2%	91.1%	1.30	99.5%	99.6%	1.00
	入学者数	数	49095	85204	1.74	191635	203375	1.06
		%	10.3%	17.3%	1.68	40.3%	41.4%	1.03
計	大学数	数	536	662	1.24	730	774	1.06
		%	72.4%	84.7%	1.17	98.6%	99.0%	1.00
	学部数	数	1326	2101	1.58	2065	2429	1.18
		%	60.3%	82.2%	1.36	93.9%	95.1%	1.01
	入学者数	数	52302	92393	1.77	211167	224473	1.06
		%	8.6%	14.8%	1.72	34.9%	35.9%	1.03

2023)や高野による調査(高野, 1991)等があり, 大学入試研究ジャーナル等で報告されている。

これに対し, 総合型・推薦型の分析としては, 宮本らの研究(宮本ら, 2022)や木村らの研究(木村ら, 2023)等, 学部単位での調査が多い。全大学を対象とした網羅的な調査としては, 荒井らによる調査(荒井ら, 2023)等, 少数である。また荒井らによる調査は, 教科・科目テストに重点を置いており, 出願書類や面接等への言及は利活用の有無にとどまっている。また著者らも, 情報系学科における総合型・推薦型によって出願資格や選抜方法の種類数等を調査したが, 出願書類等の分析には至っていない(樽松・天野, 2024)。

このような傾向にある理由としては, これまでは出願書類が書類請求しないと得られないこと, 大学や学部, 選抜区分等で出願書類が異なること, 実施学部数や入学人数が限られること等が考えられる。

しかし, 近年は, 情報機器の利用範囲の拡大もあり, Web ページから各種書類を入手することが可能である。さらに先述の「実施要項」や「平成 33 年度大学入学学生選抜実施要項の見直しに係る予告の改正について(通知)」(以後「見直しに係る予告」と表記)(文部科学省, 2018)等によって, 出願書類で記載させる項目が明確化されている。

以上の背景から, 本研究では, 公立大学を対象に, 各大学・学部が公開している総合型及び推薦型の出願書類を収集し, 出願書類の設定を「実施要項」や「見直しに係る予告」を基に分析した。

2 データおよび分析方法

2.1 対象とするデータ

各選抜, 特に総合型において多様な出願書類が用意されているため, 調査を行う上では何らかの基準に沿うのが分析しやすい。この点に対し, 本研究では「実施要項」及び「見直しに係る予告」に記載されている項目, 例えば入学希望理由, 高校での活動, 学修計画等を記載する出願書類を対象とする。さらに「見直しに係る予告」に記載があることから, 推薦書も分析対象とする。

対象とした出願書類としては, 令和 6 年 3 月時点で各公立大学の Web サイトより公開されている出願書類とした。収集においては, 出願書類として公開されていないが, 募集要項に記載例等が示されている場合は, それを用いた。また収集した出願書類において, 同一選抜区分内の学部学科単位で出願書類が共通している場合は, 1 つの出願書類として処理を行う。なお定員が設定されていない選抜区分もあるが, そのよう

な選抜で用いられている出願書類も対象とした。本研究において公立大学のみとしたのは, 著者らが公立大学に属しており, 本学の出願書類の改訂に繋がると考えたためである。

以上の方針で収集した結果を表 2 に示す。表 2 における出願書類は, 記載内容をもとに, 著者らが分類・設定したものであり, 出願書類名は, それぞれの分類で出現数が最大の書類名を用いている。また志望理由書については, その内訳も示す。ここで志望理由書には学部名を付与したもの, 「志望の理由」等の表記の出願書類も含む。「実施要領」や「見直しに係る予告」では入学希望理由の表記が用いられているが, この表記を利用している書類は 1 学部のみであった。

表 2 分析対象データ数

作成者	出願書類名	選抜区分	
		総合型	推薦型
志願者	志望理由書	40	95
	内訳		
	志望理由書	(29)	(54)
	志望理由書	(5)	(34)
	入学希望理由	(0)	(3)
	志望動機書	(1)	(3)
	志望書	(2)	(1)
	出願理由書	(3)	(0)
	活動報告書	15	20
	自己推薦書	14	16
	学修計画書	1	4
	志望理由・活動報告書	1	0
	志望理由・自己推薦書	2	0
	志望理由・学修計画書	2	2
教員等	その他	9	9
	小計	84	146
	推薦書	—	113
合計		84	259

活動報告に関する出願書類は, 8 割近くが名称として活動報告書を用いている。他の表現としては, 活動実績報告書, 活動実績書, 実績報告書, 活動記録等の表記が用いられている。

自己推薦書については, 名称として自己推薦書が 9 割を占めている。その他の表記として, 自己 PR 書, 自己アピール書, 自己申告書等がある。

その他の出願書類としては, 小論文, プレゼンテーション用シート, エントリーシート, 面接カード等がある。後述するが, その他に含まれる出願書類内で入

学希望理由等の記載を求めている場合は、分析対象とした。

上記の出願書類以外に、課題図書に対する解答用紙や出願資格確認書類、誓約書、入学確約書等があるが、本研究では分析対象外としている。

2.2 分析方法

収集時において、書類名称と設問は統一されていないことが確認されたことから、本研究では、設問に着目し、以下の観点から分析を行った。

- ① 入学希望理由等に関する傾向として、「実施要項」及び「見直しに係る予告」で挙げられている以下の項目の設問における出現頻度
 - (ア) 入学希望理由
 - (イ) 入学後に学びたい内容
 - (ウ) 入学後に学びたい内容への計画
 - (エ) 大学卒業後を見据えた目標
- ② 活動・実績報告に関する傾向として、「実施要項」及び「見直しに係る予告」で挙げられている以下の項目の設問における出現頻度
 - (オ) 各教科・科目及び総合的な学習の時間の学習における活動
 - (カ) 部活動
 - (キ) ボランティア活動
 - (ク) 留学・海外経験
 - (ケ) 取得資格・検定
 - (コ) 表彰・顕彰等の記録
 - (サ) 生徒会活動や学校行事など特別活動における生徒の活動状況
- ③ 推薦書に関する傾向として、「見直しに係る予告」で挙げられている以下の項目の設問における出現頻度
 - (シ) 本人の長所
 - (ス) 入学志願者の学習や活動の成果を踏まえた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関する評価について
 - (セ) その後の指導において特に配慮を要するもの
- ④ その他の傾向として、各書類から得られる特徴

収集した出願書類の分析に当たっては、キーワードを用いて検索を行うとともに、著者らが各設問文を確認し、判定を行った。例えば「これまでの学びや経験をどのように本学で活かすか」といった設問は、①(ウ)の「計画」と区分する。また「自己の将来像を踏まえて、志望する学科の志望動機を述べよ」という設問は、①(ア)の「理由」および(エ)の「目標」に区分

する。

またボランティア活動には、地域貢献も含め、表彰には、各種大会、競技会、コンテスト、展覧会等の参加を含めた。

3 分析結果

3.1 入学希望理由等に関する傾向

2.2 節①であげた(ア)から(エ)について、出願書類の種類毎に、明記されている出現頻度を表 3 に示す。なお 2.2 節で述べたように表記が異なっても同じ内容と判断できる場合は、記載ありと評価した。

表 3 入学希望理由等に関する出現頻度(%)

区分	出願書類名	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)
総合型	志望理由書	92.5	60.0	12.5	55.0
	活動報告書	0.0	0.0	0.0	0.0
	自己推薦書	35.7	28.6	7.1	57.1
	学修計画書	0.0	100.0	100.0	0.0
	志望理由・活動報告書	100.0	0.0	0.0	0.0
	志望理由・自己推薦書	100.0	50.0	0.0	0.0
	志望理由・学修計画書	0.0	100.0	100.0	100.0
	その他	44.4	33.3	11.1	33.3
	全書類	58.3	41.7	11.9	41.7
推薦型	志望理由書	93.7	32.6	6.3	38.9
	活動報告書	0.0	5.0	0.0	0.0
	自己推薦書	62.5	18.8	25.0	18.8
	学修計画書	50.0	100.0	75.0	25.0
	志望理由・学修計画書	0.0	100.0	100.0	100.0
	その他	33.3	22.2	11.1	22.2
	全書類	71.2	29.5	11.0	30.8

表 3 で示すように 2.2 節①で挙げた項目において、(ア)入学希望理由の出現頻度が最も高い。総合型と推薦型で比較すると、総合型が 58.3%，推薦型が 71.2%と総合型の方が低い。ただし、項目として入学希望理由の表記がなくとも(イ)の入学後に学びたい内容などを問う形で記載を求めている場合が多い。見方を変えれば、入学希望理由を項目立てして問う形式と言える。また自己推薦書においても総合型で 35.7%、推薦型で 62.5%が入学希望理由の記載を求めている。次いで(エ)目標が多い。これについては推薦型よりも総合型のほうが高い出現頻度になっている。これは総合型が将来の目標等を踏まえて、どのような取組を行ってきたかを問うことが多いためと考えられる。また自己推薦書においても総合型が 57.1%であるのに対

し、推薦型では 18.8%と大きな差がある。(イ)学びたい内容は入学希望理由より出現頻度は低い、これは入学希望理由に含まれることが多いためと考えられる。実際、「志望理由を述べてください」という設問の場合が多い。(ウ)入学後に学びたい内容への計画については「どのように学びたいか」というような表記も含めたが、学習計画書以外の出現頻度は低い。

その他に記載が求められる項目としては、自己分析や自己評価、自己アピールに関することが見受けられる。特技や趣味に加え、長所や短所、主体性や思考力等学力の 3 要素に関する点や性格についての設問が見受けられる他、志望学部や学科への適性に関する設問も見られた。

また、興味や関心を持っていることなど、志望理由の裏付けになるような設問も見られる。さらに、看護や医療系などにおいては、看護職を目指す理由など将来を見据えた設問も見受けられる。

3.2 活動・実績報告に関する傾向

2.2 節②であげた(オ)から(サ)について、出願書類のカテゴリ毎に明記されている割合を表 4 に示す。

全体としては、(キ)ボランティア活動、(ケ)取得資格・検定の項目の出現頻度が高い。(キ)については、地域貢献などを含めれば活動実績の範囲が広い設問であることや、高校等における取組が多いためと考えられる。後者については、結果が明確であり、合格証等により証明しやすく、大学側も評価しやすいため、設問として挙げやすいと考えられる。また出願資格に関連する資格もあることも要因と考えられる。

(オ)学業関係や(カ)部活動についても問われている。これらは高校生活の基本となるため、(ケ)取得資格・検定同様に記載しやすいと考えられる。一方で、総合型の方が推薦型より記載を求める割合が多い。これは推薦型では、推薦書や調査書で補えるため、多くの記載を求めていると予想できる。

また 2.2 節①で挙げた項目については、「小論文」のように名称からは予想しにくい出願書類においても、記載を求めることが見られたが、活動・実績報告においては、名称で示される書類への記載が多い。

また、その他の設問としては、「高大接続事業への参加」のように出願要件に関連する設問や、「就業体験」等の(オ)から(サ)には当てはまらない設問もある。ある大学においては、読書記録や好きな言葉についての設問を用意している。これらは、志願者の人物像の評価に用いると考えられる。

一方で、活動・実績報告に関しては、特に項目立てせず、志願者に説明を求める設問も見られる。この際、

活動の種類だけでなく、取組単位（個人かグループか）、動機（主体的か、学校行事の類いか）、さらにコロナ禍の影響を受け、オンラインか否かを問うものなどの取組方についても問う出願書類も見られた。

また、単に活動内容や成果だけを問う場合もあれば、その活動に取り組んだ動機、直面した課題と解決方法、その活動から学んだこと、今後の反映、入学希望理由との関係というように、筋道立てて問うている場合もある。この種の総合型において、多く見られた。

表 4 活動・実績報告に関する記載割合(%)

区分	カテゴリ	(オ)	(カ)	(キ)	(ク)	(ケ)	(コ)	(サ)
総合型	志望理由書	2.5	2.5	5.0	0.0	5.0	0.0	0.0
	活動報告書	40.0	46.7	60.0	20.0	60.0	33.3	33.3
	自己推薦書	14.3	7.1	14.3	7.1	14.3	7.1	7.1
	学修計画書	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	志望理由・学修計画書	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	志望理由・学修計画書	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	志望理由・学修計画書	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	33.3	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0
推薦型	志望理由書	4.2	2.1	4.2	1.1	2.1	0.0	0.0
	活動報告書	40.0	45.0	55.0	50.0	60.0	50.0	55.0
	自己推薦書	6.3	6.3	12.5	6.3	6.3	18.8	6.3
	学修計画書	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	志望理由・学修計画書	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	33.3	22.2	22.2	0.0	11.1	0.0	22.2
	全書類	11.0	9.6	13.0	8.2	11.0	8.9	9.6

3.3 推薦書に関する傾向

2.2 節③であげた(シ)長所、(ス)学力の 3 要素、(セ)配慮について明記された推薦書の割合は、(シ)が 0%、(ス)が 26.5%、(セ)が 8.8%であった。

(シ)長所については、明言している推薦書は見当たらなかった。これは推薦理由の中に長所を記載することが多いと予想されることから、明記をしていないと考えられる。(ス)の学力の 3 要素に関連する記載を求める頻度が高いが、26.5%に留まっている。(セ)配慮については、8.8%である。配慮に関しては、看護や福祉系において見られた。これは、実習等を意図していると考えられる。

その他、出現頻度が高い語としては、「活動」「評価」「学習」「人物」「学業」「適性」「態度」「成績」「その他」「具体」などが挙げられる。これらの語から人物像についての設問が多いと考えられる。あ

わせて学業や成績など高校生活の基本となる点への着目も多い。

また推薦書自体は、志願者が作成する書類以上に、設問数や内容が多様化している。推薦理由が定型文として記載されており、実質押印のみの出願書類もあれば、複数枚に及び、筋道立てた設問に答える書類や学業成績の状況や順位等、調査書に記載される項目に関する設問を有する出願書類もある。推薦書の入試での活用方法は大学・学部・学科毎に異なると考えられるが、記載量が多い出願書類は、高校側の作成負荷が大きいと考えられる。

3.4 その他の傾向

①設問について

アドミッション・ポリシーや「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」を盛り込んでいる設問が見られた。

またローカル枠やグローバル枠等の一定の条件を課す募集枠においては、「地域課題について、興味・関心があることを述べてください」や「グローバル社会の課題について、興味・関心があることを述べてください」のように、募集枠に特化した設問も見られる。

②制約

全区分において、記載量に制限を加えている。基本的にページ数や様式の改編は認めていない。最も自由度が高い制約としては、裏面も利用可能がある。文字数については、枠を提示するほか、行数や文字数の制限が見受けられた。文字数としては、 N 文字程度として余裕を持たせる場合と、 N 文字以内としている場合がある。手書き及びPC入力 of 両形式で書類を提供している場合、 N 文字以内としている出願書類が多い。これは手書きとPC入力とで文字数による不公平が生じないようにしているものと考えられる。文字数を指定する場合は200字以上、1600字以内になっており、500から800字が多い。ただし回答枠数が異なる為、全体としては1600字以上が多いと考えられる。

③用語

総合型において、AOという表記を併記している出願書類が少数見られた。これはAOという入試制度名称の知名度から高校教員へのわかりやすさを念頭にしているものと予想される。

同様に評定平均値を用いている推薦書が少数存在する。現在は学習成績の状況と表記するが、高校側は長く評定平均値を用いてきたことから混乱は少ないと予想できる。一方、調査書と比較した際、齟齬が生じる

ことから、修正検討の余地がある。

④注意事項や記載例

記載に関する注意事項や記載例を示している出願書類もある。書類内に記載している選抜もあれば、別紙を用意している場合もある。また推薦書への記載項目が多岐にわたる場合、記載の手引きを用意している場合が少数ある。

さらにChat-GPTに代表される生成系AIについての注意事項を1大学が示している。今後社会への浸透が確実視されるこの技術への対応は、入試、特に出願書類において重要な課題である。この点についての検証・対応策の検討も喫緊の課題と言える。

⑤出願書類の様式について

様式については、選抜ごとに異なることが多いが、学部共有の場合や、総合型、推薦型で共通の様式を用いている場合もある。

また縦書きの様式は無かった。教科「国語」の問題や官報等では縦書きを利用しているが、横書きが一般的になっていることや、活動等において英文を記載することがあることが影響していると考えられる。

⑥出願書類の提供方法

電子ファイルの形式としては、PDFが主流である。PDFにおいても入力可能なものと手書きとの2パターンを提供している場合がある。またPDFではなくWordやrtf形式のファイルを公開している場合や、Excel形式のファイルを公開している場合もある他、2校がJ-Bridge System(河合塾, 2018)を用いている。

⑦その他の書類につけて

その他の書類としては、出願資格を満たしていることの証明の類のほか、第3者による志願者評価が少数の選抜でみられた。

また主に医学部において、確約書、誓約書の提出を求めている場合がある。これは地域医療等に携わるため、その意志の確認として提出を求めている。

音楽学部や美術学部等の芸術系学部においては、作品についての提出が求められることも多い。これらの学部で学ぶ上では、そのような実績を重要視することは妥当と言える。その分、高校時代での活動が可否に影響を与えと言える。

その他に特徴的な出願書類としては、入学前学習計画書が挙げられる。本出願書類では、「入学までの学習・活動テーマ」「上記のテーマを選んだ理由(140字以内)」「上記のテーマに沿って、これまで学習したり取り組んだこと、結果や成果(200字以内)」「上記のテーマに沿って、2月(最終報告)までにたどりつく成果の予定(200字以内)」「12月(中間報告)までに

やりとげることの予定(140 字以内)」「1 月中の具体的な学習・活動計画(140 字以内)」「2 月(最終報告)までにやりとげることの具体的な予定(140 字以内)」などの設問に答える必要がある。これに対応するためには、志願者は十分な準備が必要であり、高校生活に一定の負荷がかかることが予想されるため、志願者はその点も考慮する必要がある。

⑧学問系統による異なり

医学・看護系、地域系においては、それらの特色に沿った設問も見られる。また、スポーツや芸術系は、活動・実績報告において、ポジションや貢献度などより詳細な内容を求めている。

4 おわりに

近年、総合型、推薦型の合格者の大学入学者に占める割合が増加傾向にあり、これらの選抜は、年内入試と呼ばれ注目されるようになってきている。これらの選抜方法についての網羅的な調査は、その在り方を考える上で重要であるが、まだ少ない。以上の背景から本稿では、公立大学を対象に総合型、推薦型の出願書類の設問について、「実施要項」「見直しに係る予告」を基に頻度分析を実施した。その結果、入学希望理由や入学後に学びたい内容についての明確な設問の出現頻度が高いが、入学後の学びの計画についての出現頻度は、それらと比較すると、やや低いと言える。また活動・実績報告ではボランティア活動や資格・検定への記載が比較的多いが、全体としては、特に項目立てせず取り組んだ活動を問う形式が多い。全体的な傾向としては、「実施要項」の記載のように、総合型のほうが、卒業後の目標や活動・実績の詳細への言及が多い傾向が見られた。さらに推薦書については、実質押印のみの書類から複数の設問から構成される書類まであり、学部・学科により大きく異なる傾向が見られた。

今後の課題としては、出願書類単位ではなく選抜単位で設問を精査し、出現頻度についての考察を深めるとともに、アドミッション・ポリシーや選抜方法、大学共通テストとの関係や推薦書の設問との相違等について調査し、出願書類設計に有用な知見を得ることが挙げられる。

参考文献

荒井清佳・伊藤圭・椎名久美子、桜井裕仁・大塚雄作・花井渉(2023)。「令和3年度の総合型選抜・学校推薦型選抜における知識・技能、思考力・判断力・表現力等の評価資料の利用実態」『大学入試研究ジャーナル』33, 226-232

クラウドセンバツ(2023)、『選抜入試の教科書』星海社
ダイヤモンド社(2023)。「大学『年内入試』を完全攻略!」『週刊ダイヤモンド』9月16日・23日合併号』111(37), 24-67
独立行政法人大学入試センター(2023)。「令和5年度問題評価・分析委員会報告書(本試験)」
https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/hyouka/r5_hyouka/r5_hyouka_houkokusyo_honshiken.html(2024年4月25日)。
河合塾(2018)。「これからの大学入試に不可欠な多面的評価を支援するツールJ Bridge System」
<https://www.kawaijuku.jp/jp/research/j-bridge/>(2024年4月25日)。
木村智志・播磨良輔・大石哲也・安永卓生(2023)。「九州工業大学における多面的・総合的な入試の制度設計検証Ⅱ——総合型選抜によって多様な資質を持つ学生を受け入れられているか」『大学入試研究ジャーナル』34, 126-133
倉元直樹(2020)、『「大学入試学」の誕生』金子書房
樽松理樹・天野哲彦(2024)。「総合型選抜・学校推薦型選抜における選抜方法の傾向調査——情報系学科を対象として——」『大学入試研究ジャーナル』34, 1-7
宮本友弘・久保沙織・尾崎章子・宮下光令・倉元直樹・長濱裕幸(2022)。「東北大学保健学科における総合型選抜の評価——看護学専攻の「AO入試Ⅱ期」について——(東北大学)」『大学入試研究ジャーナル』32, 94-99
文部科学省(2015)。「平成27年度国公立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要」https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11373293/www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/10/1362966.htm(2024年4月25日)。
文部科学省(2018)。「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告の改正について(通知)」https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/fieldfile/2018/11/06/1397731_03.pdf
文部科学省(2023a)。「令和5年度国公立大学入学者選抜実施状況」,https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/1414952_00005.htm(2024年4月25日)
文部科学省(2023b)。「令和6年度大学入学者選抜実施要項について(通知)」, 5文科高第369号, 令和5年6月3日,
https://www.mext.go.jp/content/20230719-mxt_daigakuc02-000005144_10.pdf(2024年4月25日)。
高野文彦(1991)。「大学入試における学力筆記試験の実態と問題点—アンケート調査結果の分析—」『大学研究(筑波大学, 大学研究センター紀要)』7, 79-108